

事業番号	366
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	青年の家管理運営事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生涯学習課							
	事業期間	平成22年度			～	平成30年度以降		担当係	青少年育成係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		3 健全な青少年を地域で育てる									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	4		大	2		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市青年の家等の設置及び管理に関する条例														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	市民が利用しやすいよう施設整備の管理をするとともに、青少年の仲間づくりを通じて、友愛の精神を涵養したり、ボランティア活動に目を向けることを目指して、より多くの青少年の参画を図る。														
	内容 (手段)	<p>◆24年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理とともに、青少年講座の企画・運営を指定管理とした。 ・施設を利用しやすくするため、青少年団体や青少年育成団体等、目的にあった団体に料金の減免登録を実施した。 ・不登校の悩みを抱える児童生徒の適応指導教室(学校教育課主管)への協力・支援を行った。 ・青少年の健全な成長と地域に役立つ人材の育成を目指し、青年講座を5講座(和太鼓、アウトドアクッキング)、親子、小中学生講座を8講座(歴史、囲碁、ガラスアート等)実施した。 ・青少年講座修了後に結成された同好会に発表の場を提供する機会として開催していた「青年の家フェスティバル」を活性化するため、青年の家を利用して活動をしているサークルにも参加を呼びかけ、堀の内体育施設前に場所を変更し、イベント規模を拡大し開催した。 <p>参加団体:発表7、展示1、体験1計9団体、来場者数:約350人</p> <p>◆24年度直接経費の内訳 管理運営委託料 25,807,000円 第二次耐震診断委託料等 5,775,000円 負担金等 173,125円</p> <p>◆その他財源の内訳 青年の家使用料 799,055円、資料代 43,360円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 管理運営委託料 25,463,000円 負担金等 57,000円</p>														
	受益者負担	無														

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	24,430	26,823	31,755	25,520	
		正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	1,066	1,066	1,066	1,066
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	25,496	27,889	32,821	26,586	
	対前年比	%		109.3	117.6	81.0		
財源	一般財源	千円	24,507	26,723	31,864	25,636		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	989	1,166	957	950		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	開館日数	日	目標	307	308	307
実績				307	309	309	
業	講座開催回数	回	目標	40	50	40	40
			実績	38	39	43	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			青年の家利用件数	件	目標	—	—
業	講座参加者数	人	実績	4,252	4,421	4,068	
			目標	260	—	—	—
績			実績	262	466	714	
			目標				

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	小中学生向けジュニアセミナーの開催会場としても定着しており、今年度は5講座を開催し、講座参加者数も目標値を上回ることが出来た。青年の家利用件数のみ、創垂館の利用停止もあり、目標値を下回った。				
		事業実施における課題	青年を対象とした講座は、参加者数が減少しているため、小学生とその保護者を対象とした親子講座へ講座の対象者の中心が移行してきている。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	宿泊が可能ため共同生活を伴う青少年の仲間作りや、自主的な活動の場を提供することが出来なくなる。				
		平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	新たな利用者を獲得するための、小学生とその保護者を対象とした親子講座や、小牧山の立地を生かした講座を開催する。			
		平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
		判定理由	青少年を対象とした講座の開催や、サークル活動の拠点としてのみでなく、育成した団体が、青少年を育成することで成果の還元を行う、学びの連鎖を体現する施設としての機能を有しているため、現状維持とした。				
		26年度以降の改善案	第二次耐震診断の結果、基準を満足した青雲荘については、トイレの洋式化など、最低限の改修については検討が必要。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
		維持